

明智光秀と 岐阜市



明智光秀

令和2年大河ドラマ「麒麟がくる」の主役は明智光秀(長谷川博己)。舞台は1540年代の岐阜市をはじめとする美濃一帯。斎藤道三(本木雅弘)を主君とする光秀の青春時代(20代)からのスタートです。大河をきっかけに岐阜市を訪問されるお客様をお迎えするため、10月号から3回にわたって明智光秀とゆかりの人物などを紹介してきた連載企画、いよいよ最終回です。

内堀信雄氏 (岐阜市教育委員会)

プロフィール (うちほりのぶお)
昭和34年、栃木県宇都宮市に生まれる。
昭和61年、名古屋大学大学院文学研究科(考古学)卒業。
岐阜市教育委員会にて信長公居館跡発掘調査、
長良川鶴岡宮俗調査などを担当。
現在、岐阜市教育委員会社会教育課長
■主な著書
「守屋所と戦国城下町」高志書院、平成18年
「小牧山城・岐阜城・安土城」中世城館の
考古学」高志書院、平成26年



6 おわりに 道三・信長に学んだ光秀

3回にわたり光秀と岐阜市の関わりについて述べました。最後に光秀は道三や信長から何を継いだのか考えてみたいと思います。

(1) 城づくり

織田信長が安土城で完成した新しい城郭は、堅固な石垣をめぐらし金箔瓦で飾られた高層の天守を備えるという、誰も見たことの無い斬新なものでした。そしてこの城づくりは、天下人豊臣秀吉や徳川家康に受け継がれ、江戸時代には全国各地で見られるようになります。

近年の発掘調査では、1564年

築城の小牧山城ではじめて本格的な石垣造りが試みられ、1567年にはじまる岐阜城改修では、石垣に加えて、建物の棟に金箔瓦を含む瓦を使用した御殿が建てられたことがわかってきました。安土城には準備段階があったのです。

私は、信長の小牧山城には、道三の稲葉山城というお手本があったと見ています。稲葉山城は、山の上に石垣を土台にして御殿を作って生活するという点でこの地域での先駆けをなすものでした。かつて父・信秀が目前まで迫りながら道三によって大敗を喫した、織田家にとって因縁深い城でもあります。

光秀は、坂本城(滋賀県)や亀山城

(2) 町づくり

(京都府)といった政治の拠点、城下町を伴う平地の城とともに、周山城(京都府)という山城を造っています。現在は城跡が残るのみですが、天守台・随所に巡る高石垣に加え瓦葺きの建物が存在し、光秀が信長の安土城を忠実に受け継いだ城づくりをしていたことがわかります。

通説では信長が1564年に作った小牧山城下町は画期的なものとされます。発掘調査により、東西南北に直線道路が何本も走り、武家屋敷や寺院、商工業者のエリアが計画的に配置されています。また、町の南には惣堀(総構)の堀と土塁が築かれていました。小牧山で始まった町づ

くりは岐阜、安土を経て、秀吉の大坂城下町などに受け継がれ、近世城下町に続いていくと考えられています。詳しい研究はこれからですが、

信長の町づくりの流れの中に光秀の坂本城下町や亀山城下町も位置づけられます。

こうした通説に加えて、私は信長の小牧山城下町が道三の井口(稲葉山)城下町の影響を受けたのではないかと考えます。井口城下町は、稲葉山城山麓に居館、その西側一帯に武家屋敷地、梶川堀で隔てた西側には2本の東西道路に沿って町人地をそれぞれ配するという小牧山に似た計画都市でした。町の周囲には総構を巡らし、総構内外に伊奈波神社や美江寺といった大寺社を配置します。

(3) 合戦力

1560年5月19日、桶狭間の戦いで今川義元本隊に攻め懸かる信長はこのように叫んだといわれています。

「運は天にあり。この語は知らざるや。かからば引け、退かば引き付くべし。是非において(何としても)練り倒し、追い崩すべき事、案内の内也(たやすいことだ)。分捕りなすべからず。打ち捨てたるべし。軍に勝ちぬれば、この場に乘たる者は、家の面目、末代の高名たるべし。」

(『信長公記』)

「敵が攻めかかってきたら後退し、敵が退いたら追う」というのは、1544年9月22日、加納口の戦いで道三が信長の父・信秀に対して行った戦法を彷彿とさせます。この戦いで道三は大勝利をおさめ、信秀は命からがら尾張へ逃げ帰ります。織田家にとって屈辱的なこの敗戦の原因を、信長は徹底的に研究し、桶狭間の戦いで同じ戦法を用いて大勝利を

あげたのではないかと私は想像しています。

光秀は道三・信長の戦いから何を受け継いだのでしょうか。私は「敵の大將を確実に討つ。そのために全力を尽くす」という思想だと思っています。道三はこの点や甘い。信長は桶狭間では大成功。1575年5月の長篠の戦いでは武田軍に大勝利するも、武田勝頼を取り逃がします。

さて、光秀は1579年5月、丹波八上城(兵庫県)攻めの最終局面で城を包囲している中「持ち場を離れて城に攻め懸かるな。混乱に乗じて敵の大將が逃げるかもしれない。」と言って味方を励まし、城主波多野秀治を捕らえ、見事丹波平定を成し遂げました。道三・信長の合戦力を受け継いだ、まさに「前代未聞の大將」です。そして光秀の合戦力が一番発揮されたのは、大河の最重要場面となるに違いない1582年6月2日「本能寺の変」でしょう。変直前の5月、光秀は「ときは今あめが下しる五月かな」の発句を詠みます。

大河開始まであとわずか。道三・信長・光秀の町・岐阜市にとっても「時は今」です。

さあ、皆様をお客様をお迎えしましょう！



①総構跡 (現金華山トンネル西入口)
②七曲通 (現岐阜市梶川町周辺)
③百曲通 (現岐阜市中大桑町周辺)